みやこ町歴史民俗博物館

# 博物館だより

MIYAKO TOWN DIGITAL MUSEUM
www.miyako-museum.jp

No.130

平成29年９月１日
みやこ町歴史民俗博物館発行
福岡県京都郡みやこ町豊津1122-13
ＴＥＬ０９３０－３３－４６６６
ＦＡＸ０９３０－３３－４６６７

※本誌掲載写真に関するお詫びと訂正
博物館だより No.128「漱石コレクション Vol.15」で寺田寅彦と紹介した写真は、本人同定がなされていないもので確証が得られないものでした。よって、比定を取消してお詫びいたします。

## 博物館新展示・ここに注目！ 小宮豊隆資料「漱石コレクション」Vol.17

今年は夏目漱石生誕150年。没後100年の昨年に続き、文豪ゆかりの事物は注目の的で、博物館所蔵の「小宮豊隆資料」もその一つです。

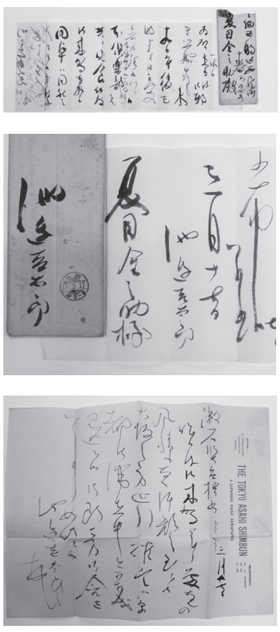
漱石の愛弟子で町出身の文芸評論家が愛蔵した、漱石ゆかりの逸品をご紹介します。

**●池辺三山発漱石宛書簡　明治40年3月**

漱石のプロ作家デビューを決定づけた池辺三山は明治40年３月15日、満を持して夏目家を訪問、直談判によって見事漱石を口説き落します。口説かれた方の漱石は池辺のことを「西郷隆盛に会ったような心持がする」と述べ、その人物に惚れ込んで朝日新聞入社を決意したと後に語っています。

実際に三山は「肥後の西郷」と呼ばれた池辺吉十郎（西南戦争で熊本隊を率いて西郷軍に参加、乱後刑死）の息子で、漱石の感慨ももっともなところから、漱石のプロデビューには維新の英雄が一役買ったということもできそうです。

左の書簡は入社決意後の晩餐の招待や挨拶目的の関西旅行を打合せたもので貴重な記録です。



▲池辺三山書簡　上：書簡（巻紙）全景
中：書簡末尾と封筒裏面（拡大）
下：朝日新聞の社用箋を使った書簡

◆講座・教室・催し物ガイド

## 9月の歴史講座

【漢詩紀行講座】　9月2日（土）　9時30分～
【古文書講座】　9月9日（土）　10時00分～
【古典かな講座】　9月16日（土）　9時30分～
【みやこ学講座】　9月30日（土）　9時00分～

※見学会等は別途ご案内します
※日程等変更となる場合があります

## 博物館で「楽習」始めませんか？

博物館は郷土資料と学芸員らのサポートによる知と学びの拠点です。以下の会や講座を利用して楽しく学びませんか？詳しくは博物館までお問合わせを！

**○博物館友の会**
バスハイク・歴史ウォーク等の学びの旅に参加できます。

**○文化遺産ボランティア養成講座（第2期）**
町の宝のガイド＆サポートスタッフを募集・養成する講座です。

## 6・7月の業務日誌から

▲県下最古の学校建築「思永館」の前で、学校の歴史を学びます

6月8日（木）、育徳館中学校の1年生120名の皆さんが、校内外の史跡見学を行いました。見どころ豊富なだけに博物館もガイドでお手伝い。新一年生の皆さんに学校内外の歴史の魅力をお伝えしました。

▲秋月街道（往来）山鹿宿の佇まいが残る琴枚神社の前で

6月24日（土）、みやこ学講座の現地学習会が行われ、20名が参加して今年のテーマ「街道をゆく」に因んだ「秋月街道散策」を行いました。見慣れた景色の意外な歴史に、感心・関心の一日でした。

▲汗だくで作業いただいた皆さん、お疲れ様でした！

7月15日（土）、重要文化財永沼家住宅で、保存協力会の皆さんによる夏季清掃が行われました。猛暑の中、館員も参加して行われた刈払除草や清掃で、住宅内外は爽やかな佇まいになりました。

▲弥生のムラがあったとされる校庭内。今回はどんな発見が？

7月19日（水）、犀川小学校校庭遺跡の発掘調査が始まりました。昭和24年に最初の調査が行われてから68年ぶりとなる本格的調査です。見慣れた校庭の地下からどんな発見があるのか楽しみです！

# みやこの歴史発見伝101

# 町指定史跡 豊前国分尼寺跡

## ―「咲く花」ばかりではなかった天平の時代と謎多き尼寺―

### 苦難も頻発した「天平の時代」

約千二百年前の奈良時代は、正倉院の宝物に代表されるような、シルクロードを経由してきた国際色豊かな文物を取り入れた貴族文化（当時の元号を取って「天平文化」と呼ばれる）が花開いた時代でした。しかし、その華やかさとは裏腹に、天候不順で作物が実らず、さらに疫病（天然痘）が大流行し、庶民は飢えや病に苦しんでいました。また、日本各地で反乱が起きるなど社会に大きな不安が広がっている時代だったのです。

このような混乱と不安を仏の力で鎮めようと天平十三年（七四一）、聖武天皇は、「国分寺建立の詔」という命令を出しました。この詔により当時日本にあった六十余りの国々にそれぞれ国分（僧）寺と国分尼寺が建立され、豊前国にも豊前国分寺と国分尼寺が建立されました。現在、三重塔が建つ豊前国分寺は広く知られていますが、同じ詔で建てられた豊前国分尼寺のことはあまり知られていないのではないでしょうか。

▶現在の豊前国分尼寺跡

### 国分尼寺

そもそも国分尼寺とは、正式名称を「法華滅罪之寺」と言い、これは女性の悟りを説く妙法蓮華経（法華経）に由来しています。また、国分尼寺には寺の財源として水田十町を与え、人員として尼僧十人を置くことも詔で定められていました。

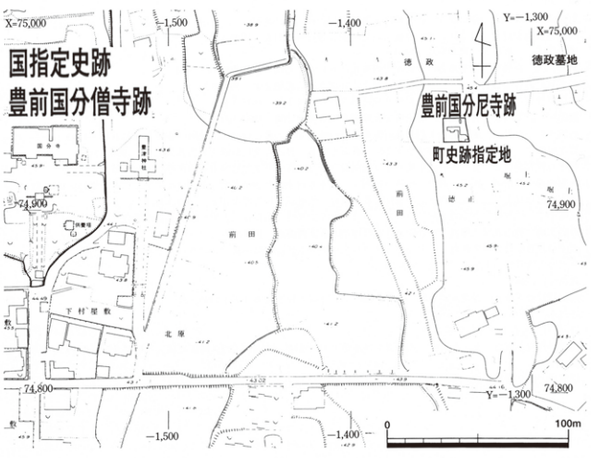
豊前国分尼寺は、豊前国分寺から二百五十㍍ほど東にありましたが、現在は草木が生い茂り「国分尼寺」と刻まれる石碑と「豊前国分尼寺」の看板が立つのみです。

この場所は平成四年（一九九二）、旧豊津町教育委員会により発掘調査が行われましたが、国分尼寺の明確な遺構は確認できませんでした。しかし、八世紀後半から九世紀にかけて作られた瓦などが出土しており、この付近にその時代の瓦葺の建物があったことは確かです。

全国の国分尼寺は、平安時代後半には衰退したとされています。律令制の衰退とともに、国からの財政的、あるいは人的支援が少なくなったことが要因と考えられており、おそらく豊前国分尼寺も同じような道をたどり衰退したものと思われます。文献によると、江戸時代には豊前国分尼寺は国分寺の末寺となり、無住の地蔵堂だけが建っていました。しかし、そのお堂も文政十一年（一八二八）の台風で倒壊したと伝わっています。

このように、現在までのところ奈良時代の建立当時の姿やその後の変遷など、多くの謎が残る豊前国分尼寺ですが、将来、発掘調査などで国分尼寺に関する遺構や遺物が見つかり、その全貌が解明される日が来るのかもしれません。

（天野詩織）




▶国分尼寺と国分寺の位置関係

◀豊前国分尼寺跡発掘調査風景